

令和4年度  
教職課程  
自己点検評価報告書

学校法人関西学院 聖和短期大学

令和5年3月

## 聖和短期大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・保育科

### 大学としての全体評価

聖和短期大学は、保育科のみの単科短期大学であり、幼稚園教諭二種免許状と、保育士資格を併修する教育課程を設定している。本学の教育課程は、「短期大学及び学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする」（短期大学設置基準第4章第5条第1項）ことを踏まえ、一般教育科目と専門教育科目によって編成し、主たる免許・資格である幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の両方を2年間で取得できるよう、効率よく必要な科目を配置し、これをベースに、児童厚生二級指導員資格、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格を取得できるよう教育課程を編成している。

本学では、教職課程の質を向上させるため、独自科目として「教育保育参観実習」および「教育保育参観実習事前事後指導」を設置し、この実習を土台として、教育・保育の実習等へと段階的に実践力を身につけられるよう工夫している。また、教育実習の充実を図るために、「実習協議会」を毎年開催し、協力園の実習指導者との連携を図っている。

本学の教員免許取得率は、毎年95%を超えており、そのうち約半数は教職に就いている（残りの約半数は保育所・施設、企業等に就職）。令和3年度は、卒業生141名のうち137名（97%）が教員免許を取得し、そのうち68名（49.6%）が教職に就いている。

本学における教員養成は、教授会、学長室会の下部組織として、カリキュラムや科目担当者の任免に関しては教務委員会が、教育実習に関しては実習委員会および実習支援室が組織され、組織的に連携しながら学生支援を行っている。

以上のように、教職課程において本学の特色を活かしつつ、組織的に学生支援を行っているが、さらに各部署との連携を強化し、各基準で示した課題について、ひとつひとつ着実に対処し、教職課程における学生の学びの質の向上のために対応していきたい。

学校法人関西学院 聖和短期大学

学長 千葉 武夫

令和4年度  
教職課程  
自己点検評価報告書

令和5年3月  
学校法人関西学院 聖和短期大学

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
1	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
2	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
3	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価	11
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	13

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名：学校法人関西学院 聖和短期大学
- (2) 所在地：兵庫県西宮市岡田山7-54
- (3) 学生数及び教員数 学生数：239名 教員数：13名  
(令和4年5月1日現在)

学生数： 教職課程履修 239名／学部全体 239名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）10名／学部全体 13名

### 2 特色

聖和短期大学は、関西学院の建学の精神であるキリスト教主義に基づき、「他者一特に幼い者や社会的に弱くされた者たち一に仕える働き人」を養成するために建てられている。教育目標として、「キリスト教主義に基づく豊かな人間性、専門的知識と実践力を備え、子どもの最善の利益に貢献できる保育者の育成」を掲げ、140年にわたる長い歴史と伝統を受け継ぎ、乳幼児の保育に携わる専門家を幼稚園、保育所、児童福祉施設などに送り出してきた。教育課程は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を柱として、実習や演習科目など実践的な学びの経験を重視し、保育の場で真に活躍できる専門性と実践力を身につけることができるよう編成している。少人数での授業やアドバイザー制度などによるきめ細やかなサポートを大切に、多様化する社会のニーズに応えることのできる質の高い保育者の養成を行っている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 1 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### (1) 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### ① 現状説明

聖和短期大学は、幼稚園教諭を養成する保育科のみの単科短期大学である。教職課程教育の目的・目標は、「他者一特に幼い者や社会的に弱くされた者たち一に仕える働き人」の養成という本学建学の精神に合致し、「キリスト教主義に基づく豊かな人間性、専門的知識と実践力を備え、子どもの最善の利益に貢献できる保育者の育成」という教育目標として、学則第1条2項に定めている。また、教職課程教育は特に幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を柱として、本学の「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に基づいて実施している。

教職課程教育を通して育成を目指す教師像については、〈知識・技術〉、〈汎用的能力〉、〈態度・志向〉それぞれの観点から具体的な資質能力の項目を挙げて「学習成果」（「学生必携」に掲載）として明示している。

教職課程教育の目的・目標および「学習成果」に明記された育成を目指す教師像は、教職員間では年度初めの教授会において確認され、入学時オリエンテーションにおいてカリキュラムマップとともに学生に説明し、周知している。また専任教員の過半数が担当する1年次開講の「基礎演習」において、本学院現職幼稚園教諭による講話を通じて学生が具体的な教師像を学ぶ機会を提供し、教員もその場を共有して学ぶ機会となっている。

##### ② 長所・特色

本学は、日本における保育者養成ならびに女性のリーダーシップ育成のパイオニア的存在としての実績を持ち、保育科のみの保育者、教員養成校であるという特色を、本学に集う学生ならびに奉職する教職員は強く意識し共有している。

本学においては、正課の授業のみならず、全教員・学生が年間を通じて毎週参加するチャペルアワーにおいても、本学院の現職幼稚園園長・幼稚園教諭、保育者経験のある専任教員等による講話を通じて、教職課程に関わる教員および学生に対する教職課程教育の目的・目標および育成を目指す教師像の周知をしている。

##### ③ 取り組み上の課題

教職課程教育の目的・目標について、毎年、専任教員のみならず、非常勤講師、事務職員が理解する機会をもち続け、有意義な時間を持ち、よりよい教育活動が行われるように共有することが課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 学生必携（2022年度）
- ・資料 1-1-2 履修カルテ

## (2) 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

### ① 現状説明

聖和短期大学は、文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場経験のある教員を配置している。また、教務委員会と短期大学事務室が一体となり学科の教育課程および教職課程を統括的に管理しつつ、学生の個別指導、支援等のために導入しているアドバイザー（担任）制度を活用し、個々の学生のニーズに細やかに対応する学修支援体制を構えるなど、適切に教職課程を運営している。

教職課程の質的向上のためには、学期ごとに授業評価アンケートを実施している。授業評価アンケートの活用については、アンケート結果をもとに、授業内容、授業方法の見直しを行い、さらに全専任教員が参加し年に4回開催されるFD検討会において、各授業担当者の授業改善方法などを共有し、授業改善、教育・学生支援体制の整備に取り組んでいる。職員も同様に法人内、法人外にて実施される研修に積極的に参加し、SDの取り組みを展開している。

ICT環境を含めた教職課程教育を行う上での施設・設備については、講義室、演習室、家庭科室、美術室、小児保健実習室、ピアノ室、ラーニングコモンズ、おもちゃとえほんのへや等を有し、プロジェクターやスクリーンをはじめそれぞれの環境に必要な機器、備品を整備している。学内には3つのPC教室と図書館のパソコンルームがあり、計127台のPCを整備している。学校法人関西学院は、複数のソフトウェアについてメーカーとサイトライセンス契約を締結している。これにより聖和短期大学の学生はOffice365 Proplusを無償ダウンロードし使用することができる。さらに学内全体においてWi-Fi環境を整えており、教育におけるICT環境を整備している。

### ② 長所・特色

本学には、教育、研究、特に保育者養成を支援するために設けられた特色豊かな体験型の学習施設である「おもちゃとえほんのへや」がある。絵本約12,000冊、絵雑誌、紙芝居等併せて約5,000冊、世界の玩具、木製玩具を中心に約1,500種類2,000点を所蔵し、学生が絵本やおもちゃに直接触れ、学ぶ機会を多く提供しており、教職課程科目の授業等で広く活用している。

### ③ 取り組み上の課題

教職課程の質的向上を目指して、FD活動をより充実させていく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：本学公式ホームページ「教員プロフィール」  
[https://www.kwansei.ac.jp/seiwa\\_j\\_college/seiwa\\_j\\_college\\_003510.html](https://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/seiwa_j_college_003510.html)
- ・資料1-2-2：教務委員会規程
- ・資料1-2-3：聖和短期大学教務委員会FD部会内規
- ・資料1-2-4：FD資料
- ・資料1-2-5：授業評価アンケート
- ・資料1-2-6：授業評価に基づく改善計画書
- ・資料1-2-7：マルチメディア教室・コンピュータ教室等の配置図

- ・資料 1 - 2 - 8 : 関西学院情報化推進機構ホームページ  
<https://ict.kwansei.ac.jp/>
- ・資料 1 - 2 - 9 : 関西学院聖和キャンパス PC 教室環境概要
- ・資料 1 - 2 - 10 : 「おもちゃとえほんのへや」リーフレット



## 2 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### (1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### ① 現状説明

本学では、アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）の中に、求める学生像を明記し、保育・幼児教育を学ぶにふさわしい学生像を適切に示している。本アドミッションポリシーを本学ホームページ、「大学案内」、「学生募集要項」などに提示し、学生募集や入学者選考を行っている。

教育・保育実習に送り出す際の指導では「実習の手引き」を配付し、特に、観察実習から責任実習へと段階的に実践力が身に付くように実習の時期を考慮して配置している。加えて、実習に効果的に取り組むことができるよう少人数制の事前事後指導を実施している。

また、学習ポートフォリオとして「履修カルテ」を導入している。学生が自身の学びの振り返りと学習目標を学期ごとに記載し、それをアドバイザー教員が確認することで各学生の学習状況について把握し、指導に役立てている。

#### ② 長所・特色

アドミッションポリシーは本学の学習成果や入学者選抜の基本方針と対応している。加えて、近年、高等学校における学びが多様になっているため、高等学校での学びを活かすことができるよう多様な方法で入学者選考を実施している。

実習においては、本学の独自科目として「教育保育参観実習」および「教育保育参観実習事前事後指導」を設置している。本科目は教職課程の中で最初の実習として配置され、学生は幼稚園や保育所で実際の保育の観察などを通して、子ども理解、保育環境や保育者の援助のあり方などについての基礎を体験的に学んでいる。この実習を土台として、教育・保育の実習等へと段階的に実践力を身につけられるよう工夫している。また、各実習科目の事前事後指導では、少人数のクラス編成を行い、具体的な保育方法の習得、学生自身の自己課題の発見と改善の取り組みなどから実践力の獲得を目指している。

「履修カルテ」は、学生自身に学びの振り返りと学習目標を学期ごとに記載させ、それをアドバイザー教員が確認することで学習成果の獲得状況を定期的かつ質的に把握している。令和元年度からは、学習成果の獲得状況を学生に自己評価させるなどの改訂を行い、教職課程の指導の向上・充実を目指している。

#### ③ 取り組み上の課題

今後も質の高い教職課程の指導を実施していくためには、これまで取り組んできた内容について継続的に実施して改善点を見出すことが課題である。

アドミッションポリシーについては、高等学校関係者を対象とした入試説明会においてアンケートを実施しており、今後も高等学校関係者から意見を聴取していくことが求められる。

実習については、実習先との協議や連携の場として実習協議会を開催し、「聖和短期大学実習協議会アンケート」を実施している。今後も、実習先からの要望や意見を実習指導に活かせるよう努める。

実習視察担当教員による評価および、アドバイザー教員による「履修カルテ」確認と学生へのコメント作業、実習事前事後指導担当教員による指導等における学生情報の相互共有については、指導内容に関する情報共有システムの確立が望まれる。

<根拠となる資料・データ等>

・資料 2-1-1：聖和短期大学アドミッションポリシー  
[https://www.kwansei.ac.jp/seiwa\\_j\\_college/seiwa\\_j\\_college\\_m\\_000124.html](https://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/seiwa_j_college_m_000124.html)  
 聖和短期大学 保育科アドミッションポリシー  
[https://www.kwansei.ac.jp/seiwa\\_j\\_college/seiwa\\_j\\_college\\_m\\_000125.html](https://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/seiwa_j_college_m_000125.html)

- ・資料 2-1-1：大学案内パンフレット
- ・資料 2-1-2：実習の手引き
- ・資料 2-1-3：履修カルテ
- ・資料 2-1-4：学生必携（2022 年度）
- ・資料 2-1-5：聖和短期大学 入試説明会アンケート
- ・資料 2-1-6：聖和短期大学 実習協議会アンケート

(2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

① 現状説明

アドバイザー（担任）制度の運用により、アドバイザー教員が個別に面談を実施し、個々の学生の教職に対する意欲や適性を把握している。また、教職履修上の課題や課題達成状況を学生が主体的に振り返るために「履修カルテ」を使用している。アドバイザー教員は本カルテを確認し、学生の教職履修上の課題の把握に努めている。こうして把握された課題等は、教員により学生委員会や教務委員会にて報告され適切な対応が協議されるなど、全学的に学生の教職に対する適性を把握する体制を整えている。

また、本学では「聖和キャンパス就職委員会内規」に基づき聖和短期大学就職支援委員会を設け、組織的に教職への就職支援を行っている。本委員会では構成員である聖和キャンパスキャリアセンター職員からの求人情報や就職状況、学生の相談の様子等について、また教員からは学生の教職に対する適性や進路の志望状況等が報告されるなど、学生のニーズや把握に基づいて組織的に教職へのキャリア支援を行っている。

キャンパス内に設置している聖和キャンパスキャリアセンター（関西学院大学と合同で運営）では、教職に就くための各種情報を適切に提供するために、求人票、個別園ファイル、就職関連図書、教職に就いた卒業生の残した試験情報資料等が揃えられ、学生が常時自由に閲覧できるなど情報収集のための環境を整えている。加えて就職活動のための冊子「就職の手引き」を作成し、学生に配付している。

聖和キャンパスキャリアセンターでは「就職支援プログラム」を年間につき1年生対象に3回、2年生対象に11回行っている（令和4年度実績）。キャリア支援を充実させる観点から本プログラム内では「卒業生による体験談」を設定している。教職に就いている卒業生がゲストスピーカーとして来校し、在校生に向けて職場の状況や就職活動のエピソード等の経験を話す機会を設けることで、教職に就いている卒業生との連携を図っている。

② 長所・特色

本学では、アドバイザー（担任）制度を設け、1年生は8クラス（1クラス 15名～16名）、2年生は9クラス（1クラス 10名～16名）の少人数制のクラスを編成している。アドバイザー教員を窓口として、実習担当教員やキャリアセンター職員等が組織的に学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。その結果、教員免許取得率は、毎年95%を超えており、そのうち約半数は教職に就いている（残りの約半数は保育所・施設、企業等に就職）。令和3年度は、卒業生141名のうち137名（97%）が教員免許を取得し、そのうち68名（49.6%）が教職に就いている。

### ③ 取り組み上の課題

コロナ禍により、ここ数年は、オンラインでのキャリア支援を実施する必要があったが、教職員間における ICT 利用技術の差異が明らかにされた側面もあった。これを受け、教職員による ICT 利用技術の向上を図るための取り組みを積極的に行っていくことが課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 : 履修カルテ
- ・資料 2-2-2 : 就職の手引き

### 3 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### (1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### ① 現状説明

本学では、コアカリキュラムに対応した教職課程のカリキュラム並びに卒業・免許（幼稚園教諭二種免許状）・資格（保育士、児童厚生2級指導員、社会福祉主事、認定ベビーシッター）に係る必修科目を活用して、スクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を具現化するため、「3つのH（Head：真理の追求、Heart：自分を愛し人を愛する心、Hand：奉仕と実践）」を大切にすることを教育理念とし特色のある教員養成を行っている。

##### ② 長所・特色

教職課程のカリキュラム並びに卒業・免許・資格必修科目（基礎演習、保育・教職実践演習、保育学研究演習、各種の演習・実習科目など）では、担当する教員がアクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を養成している。

また、各科目の担当教員が、教職課程シラバスにおいて、学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。特に、教育実習や保育実習等を行う上で必要な履修条件を設定し、教育実習や保育実習等を実りあるものとするよう指導を行っている。春学期及び秋学期の終了時には、「履修カルテ」等を活用して、学生の学修状況に応じたきめ細かな指導を行い、「保育・教職実践演習（幼）」に活かしている。

さらに、本学のキャンパス内では、教員及び学生もWi-Fiの使用が可能となっており、各教室にはノートパソコン・プロジェクター・スクリーン・AV音響設備や書画カメラ等が配備され、図書館・パソコン教室・アクティブラーニング教室なども含めてICT機器を活用することが可能である。「基礎演習」や各種実習関連科目、「保育学研究演習」などの各科目ではパワーポイント・動画・インターネットを活用した授業を展開するだけでなく、「情報処理論」ではスマートフォンやタブレットなどをリアルタイムで活用した情報活用能力を育てる教育への対応を行っている。また、本来の対面授業の他に、遠隔操作における授業（オンライン、オンデマンドなど）の工夫も取り入れている。

なお、各科目における学生の成績評価・履修カルテ等による学習成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて、教職課程のカリキュラム並びに卒業・免許・資格に係る科目の充実を図り、適切な見直しを行っている。

##### ③ 取り組み上の課題

本学では、教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、2018年度に再課程認定受審後、見直しや工夫を行っていないため、本学の建学の精神および教育目標を具現化するための、各科目の配置（開講時期）や科目間の連携等について検討することが必要となっている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-4：履修カルテ

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

① 現状説明

本学では、関西学院幼稚園や聖和乳幼児保育センター、関西学院子どもセンターなどでの見学やボランティア活動を通じて、教育の実際の場面に学生が触れる機会を提供している。特に、「基礎演習」における幼稚園見学や保育者による特別講義、本学の独自科目である「教育保育参観実習」における幼稚園や保育所における参観実習、「保育・教職実践演習（幼）」における模擬保育及びクラス運営並びに幼小の接続・連携・移行などの体験的学習などを通じて、取得する教職免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。なお、質の高い保育者養成を保持するために、「教育課程論・保育の計画と評価」「教育保育参観実習」「教育保育参観実習事前事後指導」の3科目に履修条件を設定し、「教育実習」「教育実習事前事後指導」を履修するための条件として「子どもと表現 A」「子どもと表現 B」「保育内容 健康」「保育内容 言葉」「教育の本質と思想」「教育心理学」「教育課程論・保育の計画と評価」「基礎演習」「保育原理 I-A」「発達心理学」「教育保育参観実習」「教育保育参観実習事前事後指導」を修得するなど、教育実習に臨む上での必要な履修条件を設定している。

また、教育実習や保育実習等の充実を図るために、「実習協議会」を毎年開催し、提携実習先である幼稚園・幼保連携認定こども園・保育所、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・児童発達支援センター・障害児入所施設などの協力施設の実習指導者と実習指導に関する振り返りや情報交換を行うなど連携を図っている。

さらには、本学では各自治体等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

② 長所・特色

地域での体験活動（ボランティア）や広島市での平和学習など（広島女学院との共同）への参加を推奨し、振り返りの機会を設けている。

また、「実習協議会」を開催する際に、アンケート調査を実施し、実習協力施設からのニーズや意見を得て、翌年度の実習に活かすようにしている。

さらには、本学では各自治体等との組織的な連携協力体制の構築を図るために、西宮市私立保育協会や神戸市私立保育園連盟と協定を結び、連携授業を実施している。

③ 取り組み上の課題

本学では、ボランティア等を行った際の十分な振り返りの仕組みが確立できていない。今後は、ボランティア報告書などの書式の充実を図ることが求められる。また地域連携について、本学では特定の教育施設や保育施設等との連携だけに留まっているため、小学校や他の教育・保育施設等も含めた地域連携の充実を図る必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3 - 2 - 1 : 学生必携 (2022 年度)
- ・資料 3 - 2 - 2 : シラバス (2022 年度)

[https://www.kwansei.ac.jp/seiwa\\_j\\_college/seiwa\\_j\\_college\\_018724.html](https://www.kwansei.ac.jp/seiwa_j_college/seiwa_j_college_018724.html)

### Ⅲ. 総合評価

本学の教職課程教育の目的・目標は建学の精神に合致し、教育目標として学則第1条2項に定めている。またこれに基づき、教職課程を通して育成を目指す教師像を「学習成果」として明示している。これらは教職員間で共通理解され、学生にも周知している。また教職課程を適切に実施するための教職員数を配置し、必要な施設・設備を整えている。教職課程の質的向上に向けては、学期ごとの授業評価アンケートや授業改善に向けたFD検討会を実施している。

学生の確保については、アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）において、幼児教育を学ぶにふさわしい学生像を示している。育成について、特に実習では本学の独自科目として「教育保育参観実習」および「教育保育参観実習事前事後指導」を設置し、段階的に実践力を身につけられるよう工夫している。さらに各実習事前事後指導では少人数クラスを編成し、個々の学生に応じた指導に努めている。また少人数クラスのアドバイザー（担任）制度のもと、アドバイザー教員が個別にクラスの学生と面談を行い、一人ひとりの学生の教職に対する意欲や適性の把握に努めている。学生は、教職履修上の課題や課題達成状況を主体的に振り返るために「履修カルテ」を半期ごとに記入し、アドバイザー教員が確認している。今後は、こうしたアドバイザー教員と実習担当教員の指導内容情報を共有するシステム構築が求められる。キャリア支援については、聖和短期大学就職支援委員会を設け、アドバイザー教員と連携して組織的に教職への就職支援を行っている。就職支援プログラムでは「卒業生による体験談」を設定し、教職に就いている卒業生との連携を図っている。

教職課程カリキュラムについては、コアカリキュラムに対応した教職課程を編成し、「教育実習」「教育実習事前事後指導」の履修に当たっては、履修条件を設定している。また、キャンパス内の関西学院幼稚園や関西学院子どもセンターなどの見学やボランティア活動を通じて、教育の実際の場面に学生が触れる機会を提供している。実習の充実を図るため「実習協議会」を毎年開催し、協力実習園の実習担当者との情報交換を行うなど連携に努め、加えて近隣自治体等との連携協力体制の構築を図っている。今後も継続的な協力体制を維持し、さらに連携を密にすることが望まれる。

#### IV. 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成にあたり、令和4年4月に開催された第1回教授会において、教職課程自己点検評価の実施を決定し、6月に開催された第1回教職課程自己点検評価委員会にて、次の手順を進めることを確認した。

- 第1プロセス：教職課程自己点検評価委員会より実施方針及び実施手順（自己点検評価の目標、実施組織、実施期間、実施対象を含む）を提案し、検討する。
- 第2プロセス：教務委員会において、本学の教職課程カリキュラムやシラバスの内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。
- 第3プロセス：教職課程自己点検評価の進め方について、教職課程自己点検評価委員会ワーキンググループにおいて手順と担当者等を検討し、学長室会にて点検する。
- 第4プロセス：教職課程自己点検評価委員会において、教職課程自己点検評価の実施及び手順について最終確認する。
- 第5プロセス：教職課程自己点検評価委員は、各担当箇所の観点項目を作成し、学長室会にて点検、教授会で協議・承認し、報告書を作成する。報告書は教務委員会にて点検し、教職課程自己点検評価委員会で確認する。
- 第6プロセス：教職課程自己点検評価委員会は自己点検評価報告書を最終確認し、学長室会にて点検、教授会にて承認を得た上で情報を公開する。
- 第7プロセス：教職課程自己点検評価委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題についてのアクションプランを策定し、学長室会にて点検、教授会で報告するとともに、改善・向上活動を進める。



V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 関西学院					
大学・学部名 聖和短期大学					
学科・コース名（必要な場合） 保育科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					141名
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					123名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）					137名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）					68名
④のうち、正規採用者数					66名
④のうち、臨時的任用者数					2名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	5	6	2	0	
相談員・支援員など専門職員数					3名